

【42】ゴミ屋敷礼賛

先日、某地でゴミに埋もれた住宅（ゴミ屋敷）からゴミを撤去する強制代執行が市当局によって行われたとのニュースがありました。

近所の住民からたび重なる苦情にもかかわらず、家の所有者が頑として片付けず、さらにゴミが増してくるというので、市も重い腰を上げたのです。

ゴミ屋敷の主というと、稀に御婦人の場合もありますが、多くは中高年の男性です。若者は聞きませんね。

実は、戦中戦後派の私も、食糧難、物不足の時代に育ったせいか、長じて物の豊富な時代になっても、なかなか不用品を捨てられないのです。

裏面の白い紙、空袋、包装紙、月替りのカレンダーのはがしたもの、菓子箱やティッシュペーパーの空箱、ワインやウイスキーの空き瓶、使用済みのヒモ、輪ゴム……などあらゆる物です。

一度使っても未だ使える余地がある、とっておけばいつか必要になることもあるう、捨てるにはもったいない、という非常時を確信するような"暗い"感情に囚われるのです。

家内がうるさいので涙を飲んで捨てるのですが、隠し残しておいた物が少しづつ溜まってきます。私にはゴミ屋敷の主人になる資格は十分にあります。

代執行のニュースを聴いて、ゴミ屋敷の主に秘かな共感と同情の念をおぼえるのです。